

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2018年8月11日

三田市議会議長 今北義明 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	日本共産党三田市議団	代表者	国永紀子
		議員名	印
派遣者氏名	国永紀子 長谷川美樹 長尾明憲		
視 察 先	長野県諏訪中央病院 長野県飯田市		
調査事項 (調査目的)	「公立病院改革ガイドラインへの対応について」 「公共施設等総合管理計画について」など		
日 時	2018年7月10日（火曜日）～ 2018年7月11日（水曜日）		
視察先対応者	敬称略 順不同 諏訪中央病院：吉澤徹院長、有賀秀敏事務部長 飯田市：議会事務局次長 北原香子、ムトスまちづくり推進課自治振興係長 松下善彦、小室勇治、財政課行革施設マネジメント係長 今村勉、松下健、議会事務局 松下弘毅		
添付資料	・ ・ ・ ・		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	2018年 7月10日(火) 14時00分～16時00分
視察先 諏訪中央病院(長野県茅野市)	
調査事項 「公立病院改革ガイドラインへの対応について」など	
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>別紙参照</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	2018年 7月 11日 (水) 10時 00～12時 00分
視察先	長野県飯田市
調査事項	「公共施設等総合管理計画について」 など
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>別紙参照</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

日本共産党三田市議団の視察報告

2018年7月12日

長谷川美樹

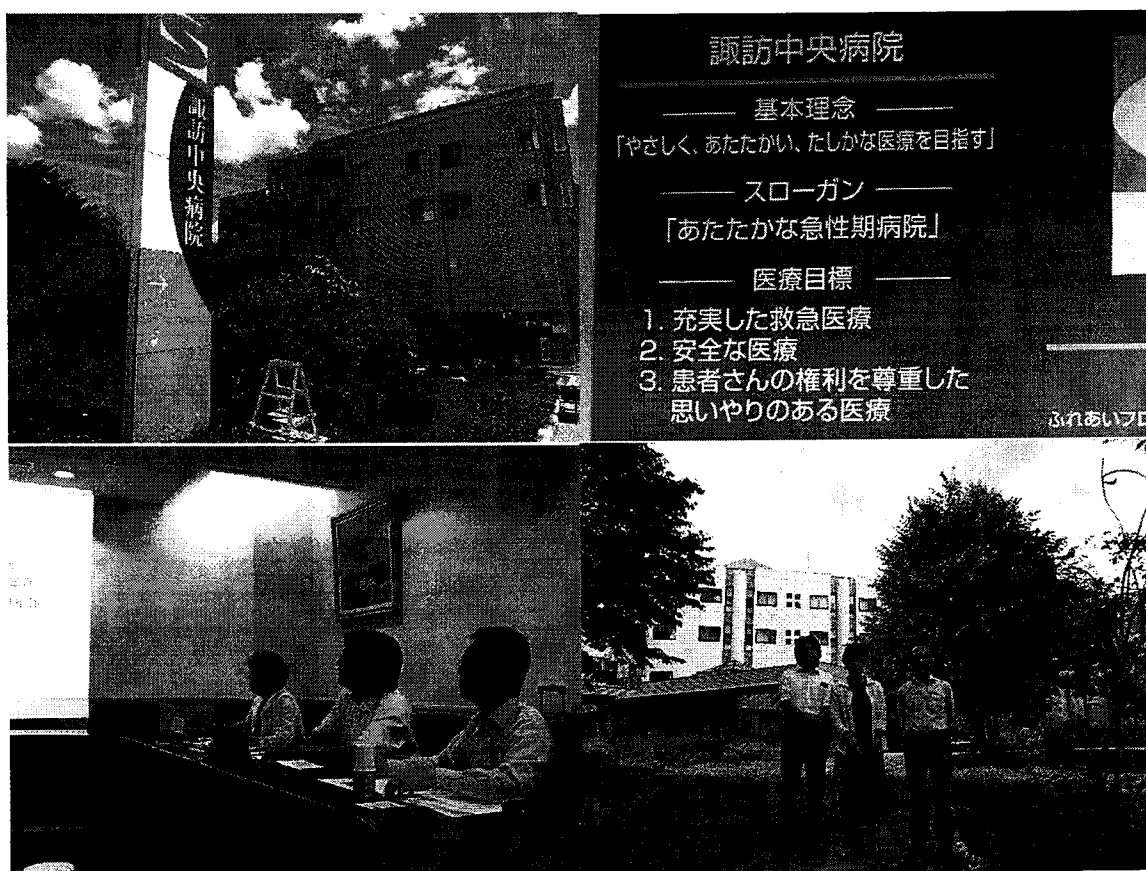
日本共産党三田市議団として、7月10日～11日と視察をした。以下に報告と感想を記す。

日程・視察先・視察目的

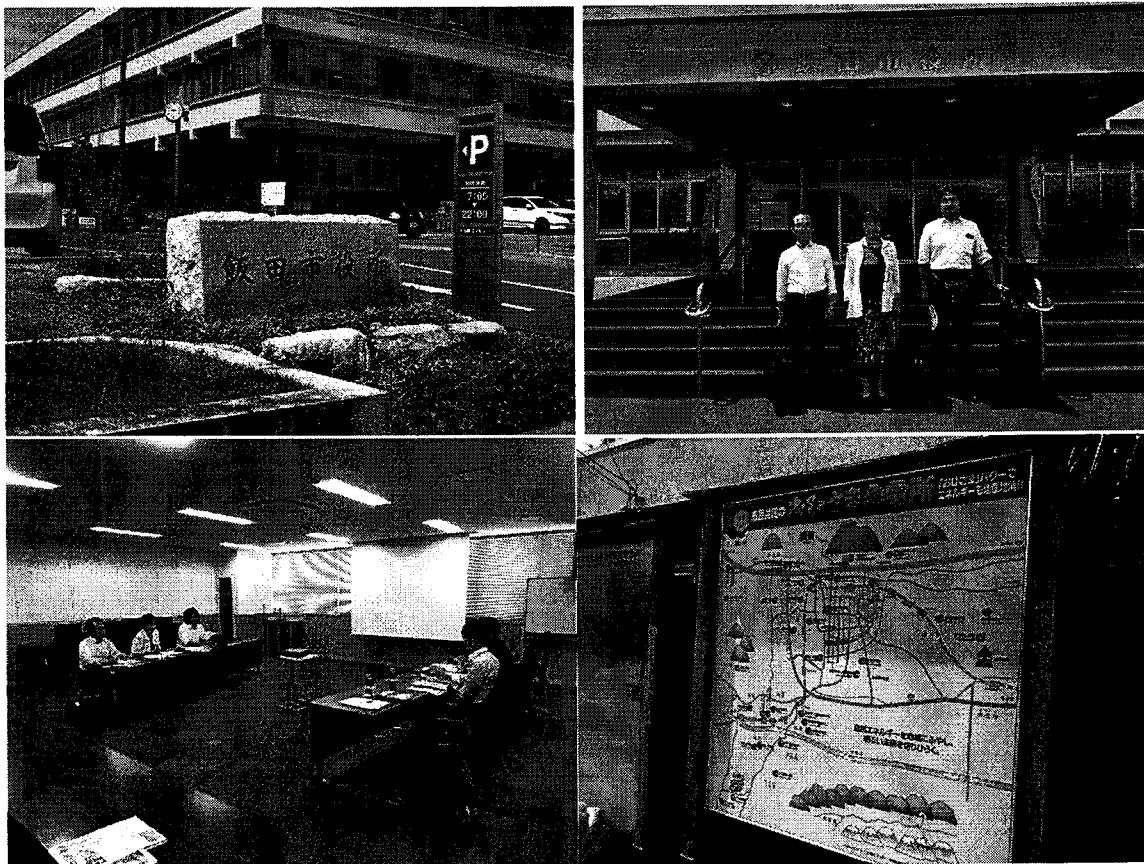
日程①： 7月10日(火)

視察先： 諏訪中央病院(長野県茅野市玉川)

目的： 公立病院としてのあり方・取り組み、公立病院改革ガイドラインとの関係



日程② 7月11日(水)
視察先: 飯田市役所(長野県飯田市本町)
目的: 公共施設等総合管理計画の策定へのプロセスと考え方



1. 諏訪中央病院視察

病院の概要

開設年月: 1950年5月1日 → 1986年4月1日現在地に移転
設立主体: 茅野市(出資率:85%)・原村(同:11%)・諏訪市(同:4%)
による一部事務組合
組合長: 茅野市長 柳平 千代一
院長: 吉澤 徹
保健医療福祉管理者: 濱口 實
名誉院長: 鎌田 實
医療目標

スローガン 『あたたかな急性期医療』

基本目標 ① 充実した救急医療

② 安全な医療

③ 患者さんの権利を尊重した、思いやりのある医療

平成30年度組合目標

・地域包括ケアシステムを重視し、諏訪地方の医療・福祉の向上に
貢献しよう

・働き方の工夫をしながら、これからの地域医療を支える人材育成を
すすめよう

・安定した経営組織体を目指して、諏訪中央病院グループの各施設が
互いに協力しよう

病床数 一般324床(一般190、地域包括ケア86、緩和ケア12、回復期リハビリ
テーション36)

療養病床 36勝(医療療養型)

職員数 合計735名(2018年4月1日現在 常勤数)

医師 102名

専門職(Nrs 除く) 313名

看護師・保健師等 320名

診療科数 29科

* 地方の公立病院として、特定の大学病院の医局が医師の配属を実質的に行っているのではなく、というより、なかなか医師の派遣が困難であることが実情の様である。しかし、院内に独自の「臨床研修研修センター」を立ち上げて、医師の教育に力を注ぐ。

* 初期研修医(全国の64大学から)・専攻医(76大学から)を確保することで、102名の医師体制。

* 初期研修医の過半数が、諏訪中央病院で後期研修を受け、専攻医の過半数が諏訪中央病院のスタッフとなっている。

* クリニカルクラークシップ(2~4週間)として、全国各地の大学から24名の学生が集まった(2017年度実績)

また、全国から72名の大学生が見学を訪れている

* 「総合診療科」・・・適切な診断を行うために、患者の話を丁寧に聞き、体が発している声に耳を傾け、必要な検査を行い正確な診断に至る。必要な専門科の医師と協力。

* 「あたたかな急性期医療」(スローガン): かつて急性期医療を集中的に行ったことがあったが、地域の医療ニーズに合っていなかった反省から、地域が元気であるためには、「仕事」「医療」「教育」が必要であり、この「医療」は、「病気を治すこと」だけ

では不十分。地域が活性化し、元気になり、人が集まるようになるためには、安心な地域であること、それを維持することが何より大切と位置づけ。

救急、急性期医療をしっかりと提供し、命を守る。その上で、緩和ケア、在宅ケアを行い、看取りまでしっかり診る。これを諏訪中央病院の大切な使命とする。

*「切り捨てない医療」：最後まで住み慣れた地域で暮らし続けたい。個々の患者の在宅生活を支えること、それは「地域」を応援していることであり、そういうところに目を向ける医療が大切。〈見放さない、放り出さない〉

*「つなげる地域医療」：若い医療従事者の教育に力を入れる。これにより医療のレベルを上げることにつながり、自らの地域に帰ったところでは、その地域をよく見て、地域の人と一緒に、地域に必要なことをやっていく医療をする。また、何より地域の住民とのつながりを大切にする。

*「ほろ酔い勉強会」「病院祭」「ホスピタルコンサート」など、地域の多くの方に関わっていただいている。(ボランティア活動も含め)

➡ 「この地域には、地域医療を支える諏訪中央病院がある」

以上の説明を受けたことからの感想など：

対応： 吉澤 徹院長、有賀秀敏事務部長

午前10時に会議室へ案内されると同時に吉澤院長と有賀事務部長が現れ、双方の挨拶・直ちに本題へと移った。

事前にHPなどからの知識を得て病院の歴史を頭の中で反復しながら「諏訪中央病院の概要」の説明を受けた。

詳細なお話を通して、最も重要なポイントは、「医療とはなにか？」であった。「何のために医療があるのか？」「地域医療を守るために、何が必要かの立場に立つ」

院長の「改革プラン」についての説明は、「赤字か黒字ではなく、(病院は)何をやっていくのかを書いている」とのこと。

* 公立病院として、「医療とは何か？」をしっかりと考えさせられる内容の視察であった。

* 自治体は、どうやって地域に住む人たちの健康と命を守る観点から、「かかりつけ医」なども含めた総合的な地域医療の確立を考え、公立病院の果たす役割と責任をどのように全うしていくのかに立ち切ることが極めて重要であると改めて考えさせられた。

2. 飯田市役所の視察

「公共施設等総合管理計画の策定へのプロセスと考え方」を学ぶ目的で飯田市役所を訪問した。

ほぼすべての自治体で「公共施設管理計画」を策定している。この策定に至る「プロセス」が決定的に重要であり、民主的に作られてきたのかが問われる。

かつて、自治体問題研究所が開催した研修会で、所謂「上からの計画策定」の自治体例、一方で「下からの計画策定」の自治体例を学んだ。その「下から」つまり、住民と行政が「時間と労力」(民主主義)をどれだけ大切にして「自らの地域を考える」かを形にしていかが問われている現状を直接学ぶための視察である。

対応して下さったのは、議会事務局次長の北原香子氏、ムトスまちづくり推進課自治振興係長の松下善彦氏と小室勇治氏、財政課行革施設マネジメント係長の今村勉氏と松下健氏。また、議会事務局の松下弘毅氏が全体の進行や議場案内などをしてくださった。

「飯田市公共施設マネジメント」を策定されているが、その内容を学ぶ目的ではないので、その内容については、省略する。

この策定過程を理解するために、「飯田市の地域自治組織制度」の説明を受けた。

元々、長野県では「自治」が歴史的にも根づいており、住民自治の伝統がある。この飯田市の歴史的背景もある。

新たな「地域自治組織」導入の経過では、地域づくりを進める上で、「縦割りから横の連携を重視した仕組み」に変え、全体の中で費用を投入していく仕組みが必要と位置づけられた。

また、「合併する、しない」に関わらず、飯田市においては「地域自治政府」を導入していく。

これを推進していくために、「新交付金制度」(パワーアップ地域交付金)をとり入れた。

新たな地域自治組織導入の「目的」は・・・

- ① 行政と住民の協働による住民自治の拡充
- ② 住民に身近な事務を住民の意向を踏まえ処理
- ③ 住民の企画による個性豊かな地域づくりの推進
- ④ 各種団体活動および行政の支援体制の再構築、住民同士の連携・協力による総合的な地域づくり推進
- ⑤ 役員の負担軽減と人材育成
の5点。

こうした自治組織の活動を通して、行政は計画を持ちながらも「上から」押し付けるのではなく、地域の方向性など、地域にとっての今後などを住民自らが考え、議論していく。行政はそこに人的支援と情報、必要な財政支援も行いながら、計画を練り上げていく。＜住民全体で、「地域別検討会議」や「目的別検討会議」を開き、住民の合意形成を図っていく。＞

「時間と労力がかかります」とは、説明して下さった職員という言葉。「住民を信頼！」

国は、管理計画の中で、自治体へ施設全体の「12%削減」を示しているが、飯田市では、むしろそれ以上の削減が必要と考えている(職員)

施設管理計画の中では、当然小中学校も対象となるが、地域の中での学校の存在が住民の生活を考えていくと、統廃合ではなく、少人数でも地域には学校が必要。(職員)

現在三田市で進められている、文科省が示す「適正規模」の議論は、教育の本質を見失う者であろう。

真剣に地域の将来を考えていくためには、その基本である「住民自治」を大切に、「時間と労力」がかかるがその過程を大切にしていくことが、将来に責任を持っていくことになるかと確信した。

7月10日・11日 日本共産党三田市議団行政視察所感

国永紀子

諏訪中央病院視察の感想

念願の諏訪中央病院の視察がかない、天候にも恵まれよかった。

病院の概要

諏訪中央病院は運営を茅野市、原村、諏訪市による一部事務組合。

名誉院長は、病院の基礎を築いた 鎌田實先生、其の存在は大きい。

ベッド数 360床

診療科 29科

職員 709名（29年度）内 医師102名

始まりは、茅野町国保直営諏訪中央病院、昭和25年病床数22から、増築増床を重ね、現在の病院に。

病院の特徴

一 新設された救急総合診療センターは、総合診療科と救急科があり、総合診療科は患者の抱える身体的、精神的問題を的確に診断指摘せつな対応ができ、救急科は歩いてくる患者さんから、救急車、ドクターヘリで運ばれる患者さんまで、すべて断らずに受け入れをめざしている。

総合診療科があることで患者さんは、どの診療科に行けばいいのか適切に対応してもらえるので、三田市民病院でもやって欲しいと思うところです。

二 360床の公立病院でありながら、医師の研修センターを設け、全国から研修医が集まってくる、内半数は各地へ散っていくが、半数は当病院に従事しているとのこと。また看護学院をもっている強みも大きい。ただこうした医師研修センターや、看護学院の運営に公費の援助をしてほしいとのこと。

三 公立病院新改革プランについて、

総務省は全国の公立病院に同じ内容の改革プランを提示しているが、諏訪中央病院では、今後もこの地域に必要な継続した医療提供をおこなうため、現行の360床は維持し、

- ・八ヶ岳西麓の救急医療を担っていく
- ・高齢者に多い整形外科領域複数疾患を持つ患者への適切な医療の提供
- ・在宅復帰に向けたリハビリテーション医療の充実
- ・在宅で診ることのできない慢性患者の受け入れを今まで以上に質の高い向上を図りながら進める。

・安心して子供を出産し、育てられるよう小児・産婦人科の充実を図る。
以上の様な基本方針のもとで、改革プランを作成されているのが大変素晴らしいとおもう。

飯田市公共施設マネジメントの取組について の行政視察所感

はじめに 飯田市を視察先を選んだ理由は、今問題の公共施設マネジメントのやり方が、住民参加で、ボトムアップ方式でやっているとの情報に参考にしたいと考えた。

飯田市の概要から、人口規模、世帯数は三田市と類似しているも、昭和12年から、平成17まで合併を繰り返し、旧の町・村での自治組織を活用した形で地域自治の力が土台になっている。

市では、従来の住民の中にある、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神と位置付けて、自治基本条例に盛り込まれている。

住民組織と行政の組織は三田市のそれとは少しちがって、まちづくり委員会の傘下に自治会組織を組み込み、その中から、選出しまち協の各委員会している。

飯田市の国公共施設マネジメントの推進方策は、①利用者、関係団体、地域住民などによる総合的な検討を進めるための環境づくりをすすめる。充分は意見交換により問題の解決をすすめる。

②「目的別検討会議」「地域別検討会議」を設置し充分な意見交換により課題の解決、具体的な検討を行う

学ぶところと感じたのは、行政の住民意見を聞く姿勢がしっかり根付いている。住民の側にも、地域力がしっかりしているのは合併によって大きな市にはなっているが旧村・町の人つながりが基礎になって住民が自分たちで考えることができる自治力すばらしいと感じました

7月10日 11日 日本共産党議員団視察 長尾所見

諏訪中央病院

●所見

諏訪中央病院については、三田市民病院と同じ中規模病院でありながら、全国でも高い知名度を誇る病院として以前より注目をしていた。

病院としての考え方が三田市とは大きく異なり、もちろん経営面も大切だが、それ以上に赤字黒字ではなく、何を病院としてやっていくのか、地域ニーズに沿った医療をどうやったら提供できるのかを考え運営をされていると感じた。そのため、国や県の方針にただ従うのではなく、諏訪中央病院として提供したい医療はこれだという筋を持っている。

医師確保における考え方は、そもそもの背景が三田市民病院とは大きく異なり、特定の大学が存在しない。そのため決まった医師の派遣がなされないというデメリットを持っているが、逆に自分たちで医師、看護師を育てるという取り組みを行い、成功されている。三田市民病院の場合は、特定の大学に依存する形になっており、安定して医師を派遣してもらうには、関係性の維持が大切になってしまっている。これまでの関係などもあり、大きな仕組みを変えることは困難であると考えているが、医師、看護師を育成していくノウハウは三田市民病院にも活かせるものであると考える。

諏訪中央病院では自治体からの支援は少なく、病院独自での取り組みが非常に際立っていると感じる。逆に言うと三田市民病院においてもまだまだ改善する余地はあるし、こうした先進事例に学ぶことは多々あるため、国や県に言われるがままに早急な見直しが必要であるとは思えない。

飯田市

●所見

各自治組織がしっかりと機能しており、自治が大切にされている印象を強く受ける。特に自治計画づくりをする際の苦労話では、住民に納得してもらえるまで、何度でも話し合いを繰り返すその姿勢が非常に大切であると感じた。今の三田市では一度説明を行えば、たとえ住民が理解できていなくとも行動に移してしまう悪い点が目立つ。一方的な説明ではなく話し合いをされている点も非常に重要であると考え。話し合うことにより、より住民の自治意識も高まっているのではないだろうか。その分担当は大変であるとのことだが、担当者の大変さを住民も理解できるからより良い協働の関係が築けているのではないだろうか。

飯田市の場合は、多くの町村が合併して今の飯田市を形作っている。そのため、旧町村単位の自治がしっかりと生き残っており、それを飯田市も無理に壊すことはしていない。時代にあった再編等は今後必要になっていくと考えられるが、しっかりと住民の声を聞こうとしているように感じる。

学校の再編についても、まず学校のない＝こどもの声が聞こえない地域がどうなのか？との考え、学校は地域の核であるという考えから積極的に統廃合を行っているという様子ではない。三田市における「まず統廃合ありき」の考え方とは大違いである。三田市が飯田市のように住民の声をしっかりと聞き、公共施設の意義、役割をしっかりととらえてから管理計画なども実施できる自治体になってほしいと願う。